

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	22	学 校 名	吉田特別支援学校	記 載 者	松本 比呂美
------	----	-------	----------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
安 心 ・ 安 全	ア 児童生徒の命を守り、互いの人格と多様性を認め合う教育活動の推進	・教職員自らが人権感覚や道徳心を高め、見本となる行動ができたと答える教職員 100%	A	A	・人権はとても大切なこと ・威圧的な支援をしていないことに好感をもった
	イ 児童生徒が安心安全に生活できる教育環境の整備と教員の対応力向上	・児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう日常的に環境整備が行えたと答える教職員 100% ・学校経営予算の 12 月末執行率 70%以上 ・監査、検査等の結果における注意、指摘事項の区分 0 件	A	A	・安心安全な学校づくりは保護者にとっても大切なこと
	ウ 事故や大規模災害等に備えた危機管理体制の強化	・事故や発災時の自らの役割を理解し、訓練では適切、迅速な行動をとれたと答える教職員 100% ・児童生徒自身が命を守る行動ができるよう、実態に応じた防災教育が実施できたと答える教職員 100%	A	A	・現実に応じてマニュアルを見直していくことは必要 ・他県の例を参考に見直ししていくことが必要

	エ 働きやすい職場環境づくりと組織的な対応ができる教員集団づくり	・日常業務や分掌業務を行う上で効果的・効率的な遂行を意識した業務改善に取り組めたと答える教職員 100% ・職場における良好な人間関係づくりを意識して、報連相や雑相に努めることができたと答える教職員 100%	B	B	・多忙により不十分になることがあるなら見直しや配分に工夫が必要 ・効率よくまわすことのできる職場環境にしている ・スクラップアンドビルドは容易ではない ・仕事をする時間づくりが必要 ・「やめる」「任せる」「創り出す」の視点が素晴らしい ・業務の仕分けをして業務改善をすすめてほしい ・以前からやっていることに対し、本当に必要か考えるとよい
	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
授業	ア 学習指導要領を踏まえ、児童生徒の思考・判断・表現を引き出すための授業力の向上	・児童生徒が学習活動の中で、考えたり判断したりしながら力を発揮することのできる授業実践ができたと答える教職員 100%	A	A	・児童生徒を尊重した指導をしている ・児童生徒が考え、行動できるまでの時間は人それぞれ違うのでその対応の工夫が必要 ・若手教員育成ができていないか確認するとよい
	イ 個別の指導計画における適切な目標設定と効果的な指導実践	・実態に応じた適切な個別の指導計画が作成でき、目標達成することができたと答える教職員 100%	A	A	・今の児童生徒の姿を捉えて次へのステップを教員が考えている
	ウ 12 年間の成長と自立を見通した各部における教育課程の見直しと改善	・自立に向け、学年段階を踏まえた上で、実態に応じた指導実践を行い、成果が出たと答える教職員 100%	A	A	・学部を越えた交流は刺激になっている ・発達段階を考慮した指導ができている
	エ BYODを意識した、個に応じたICT活用の推進	・端末の活用方法やルールなど、個に応じた指導ができたと答える小中学部職員 100% ・卒業後の生活を	B	B	・生徒自身の ICT 活用の認識はどうか把握するとよい ・用途や目的を意識するとよい ・活用できなくてもまずは取り組むことが大切 ・活用しやすい仕組みづくりが大切 ・生徒が関わる世界の広がりや情

様式第 5 号

		見据え、情報モラルや個に応じた I C T の活用方法を踏まえながら指導ができたと答える高等部職員 100%			報取得、コミュニケーションを支えることになるので活用することは大切だが、現実的には費用がかかるし、家庭の事情もある
	オ 生涯教育につながる教育活動（文化・スポーツ・芸術）の充実	・児童生徒の体力の維持向上と生涯スポーツに関する授業実践や情報提供ができたと答える教職員 100% ・表現力や想像力を高めるために、読書や芸術活動（音楽・美術）に取り組める環境を整え、教育活動を推進できたと答える教職員 100%	B	A	・児童生徒にとって学校の活動はとても充実していると思える
	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
連携	ア 地域社会とつながる教育課程の実現を目指した、コミュニティ・スクールの充実	・地域社会とつながる取組みをとおして、地域と学校の間につながりをもつことができたと答える教職員 100%	A	A	・地域とのつながりがあり、楽しそう ・多くの人に学校の教育活動を認識してもらうための工夫が必要
	イ 自己実現を図るための自己理解とキャリア教育の充実	・児童生徒の実態や年齢に応じたキャリア教育の実践ができたと答える教職員 100% ・児童生徒自身が自己理解を深め、自己選択や自己決定を促す指導の充実が図れたと答える教職員 100%	B	A	・学校は児童生徒に対し、誠実に向き合っている印象がある
	ウ 共生社会の実現に向けた地域・学校・家庭との連携強化	・必要に応じて地域の関係機関や保護者と連携して課題解決に取り組めたと答える	B	B	・まだ工夫の余地がある ・学校の教育活動を社会にアピールすることが必要

様式第 5 号

		る教職員 100% ・ 交流教育や地域作業など、地域とつながる学習を積極的に取り入れ、学校と地域のつながりをもつことができたと回答する教職員 100%			
--	--	---	--	--	--